

2 研究の実際 > (3) ピア・メディエーションに関する活動プログラム

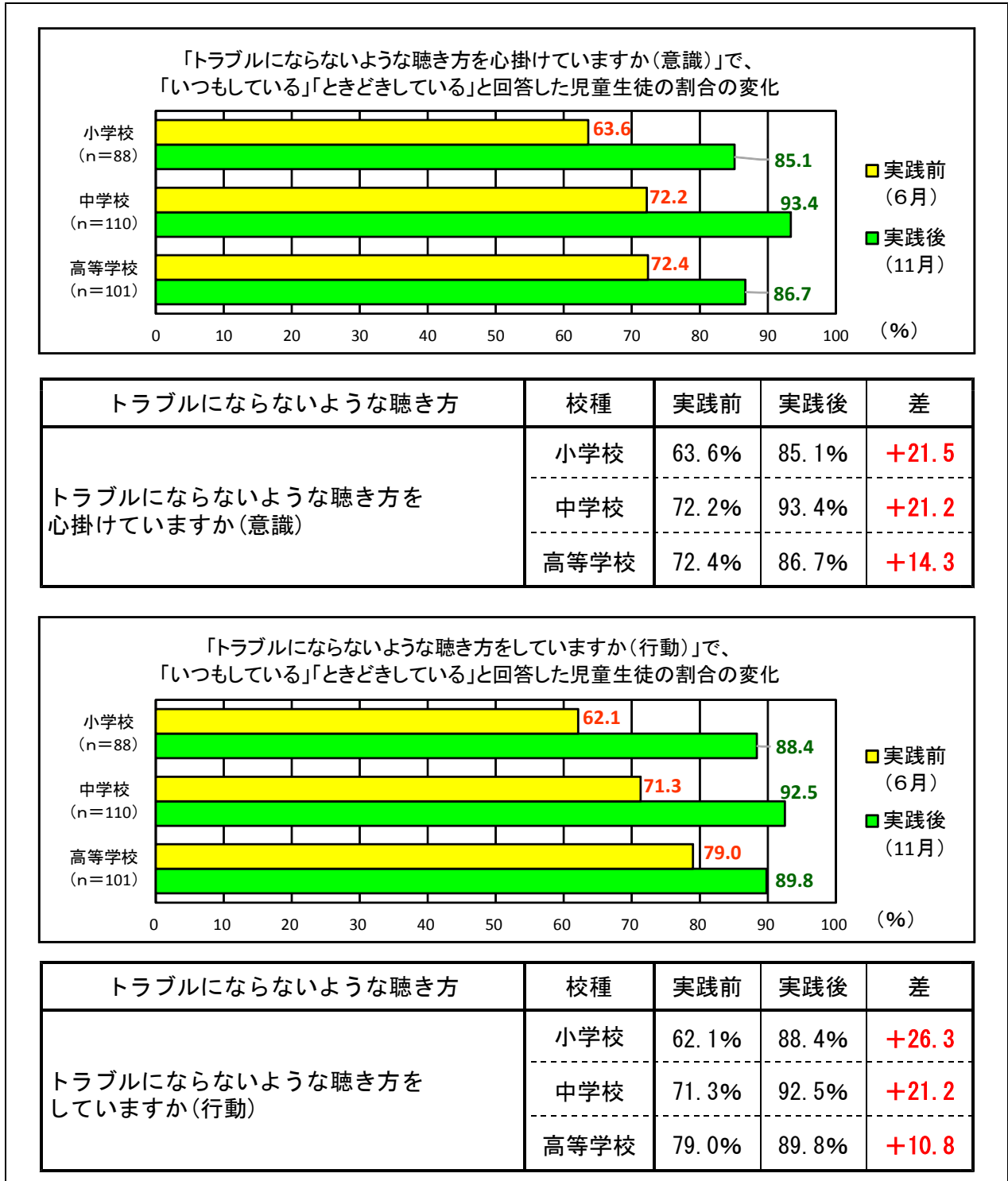
**オ 活動プログラムの検証**

(ウ) 検証結果<参考資料：小学校・中学校・高等学校の比較>

【検証の視点Ⅰ】トラブル未然防止に効果があったか

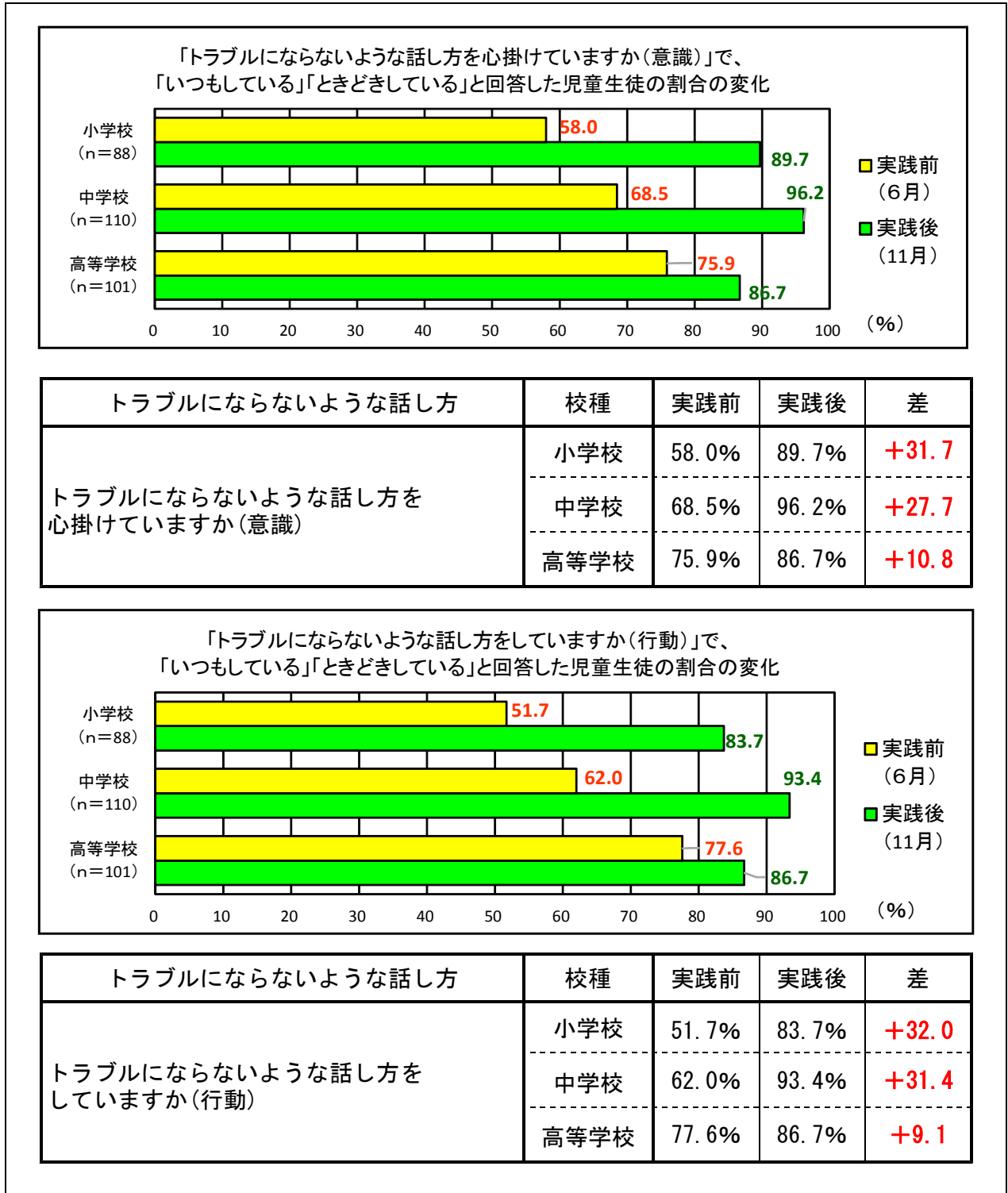
a トラブルにならないような聴き方や話し方についての児童生徒の意識と行動の変化

(「ピア・メディエーションに関する活動プログラムの学習についてのアンケート」結果より)



資料1 トラブルにならないような聴き方についての児童生徒の意識と行動の変化

○「ピア・メディエーションに関する活動プログラムの学習についてのアンケート」で「トラブルにならないような聴き方を心掛けていますか（意識）」と「トラブルにならないような聴き方をしていますか（行動）」の質問に対して、「いつもしている」「ときどきしている」と回答した児童生徒の割合は、全ての校種で上がりました（前頁資料1）。



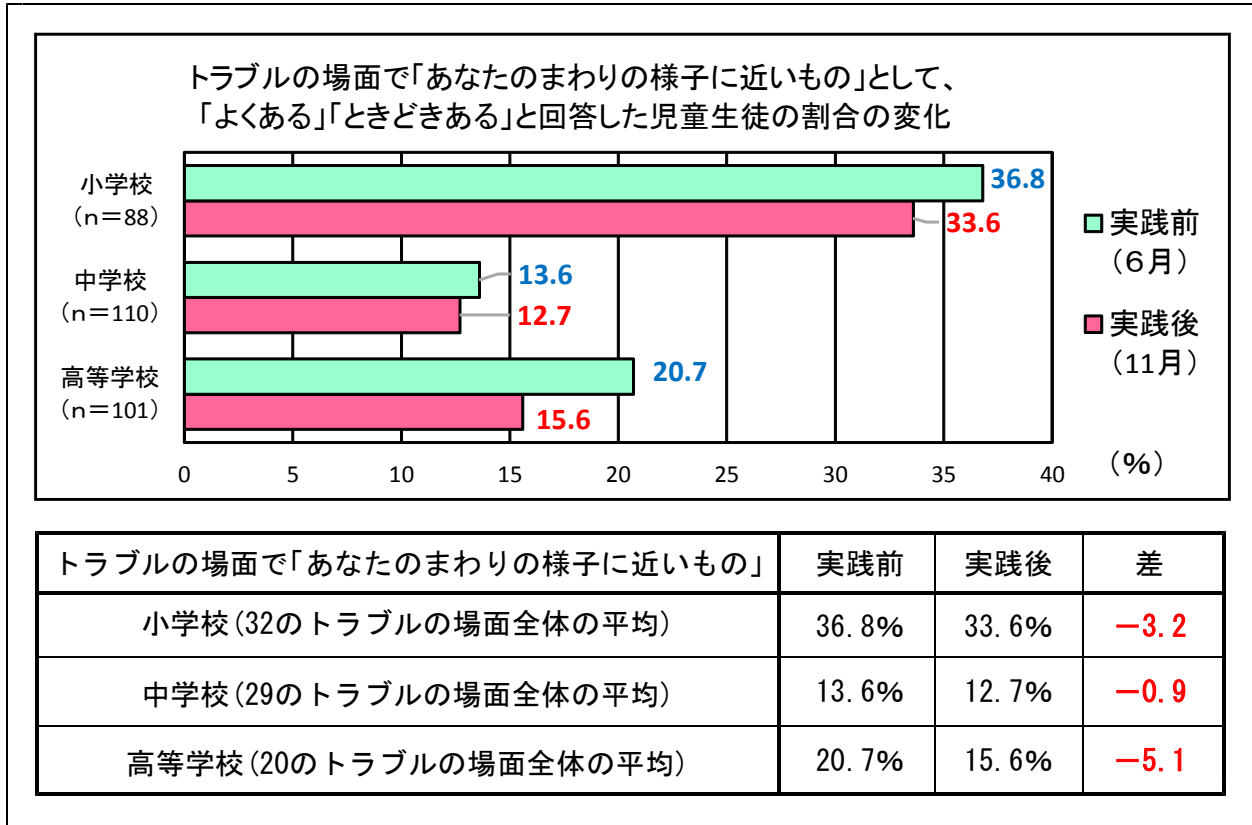
資料2 トラブルにならないような話し方についての児童生徒の意識と行動の変化

○「ピア・メディエーションに関する活動プログラムの学習についてのアンケート」で「トラブルにならないような話し方を心掛けていますか（意識）」と「トラブルにならないような話し方を

していますか（行動）」の質問に対して、「いつもしている」「ときどきしている」と回答した児童生徒の割合は、全ての校種で上がりました（前頁資料2）。

**b 学級におけるトラブルの頻度の変化**

（「トラブルについてのアンケート」結果より）

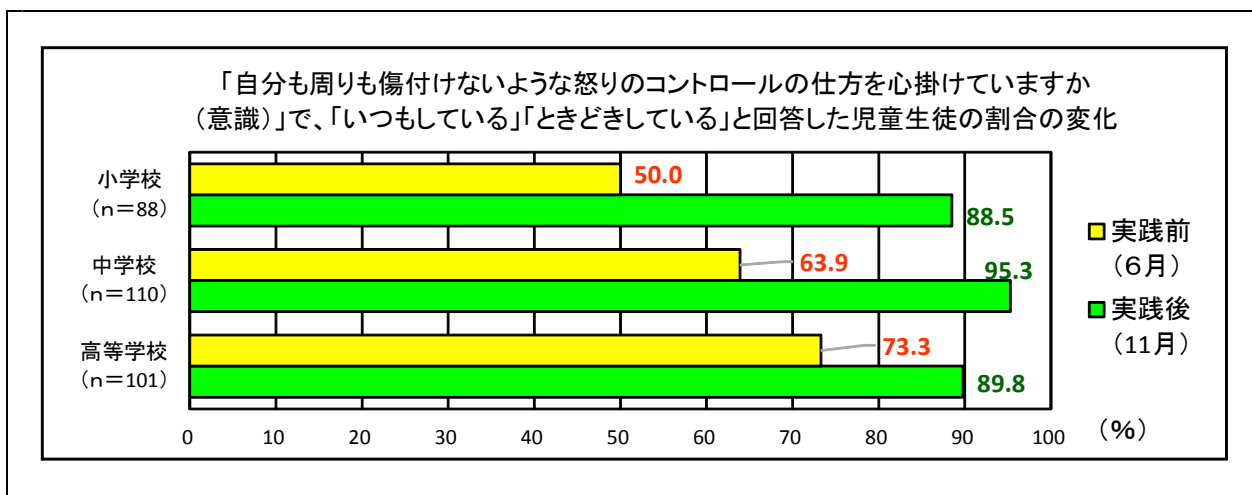


資料3 トラブルの場面で「あなたのまわりの様子に近いもの」として、「よくある」「ときどきある」と回答した児童生徒の割合の変化

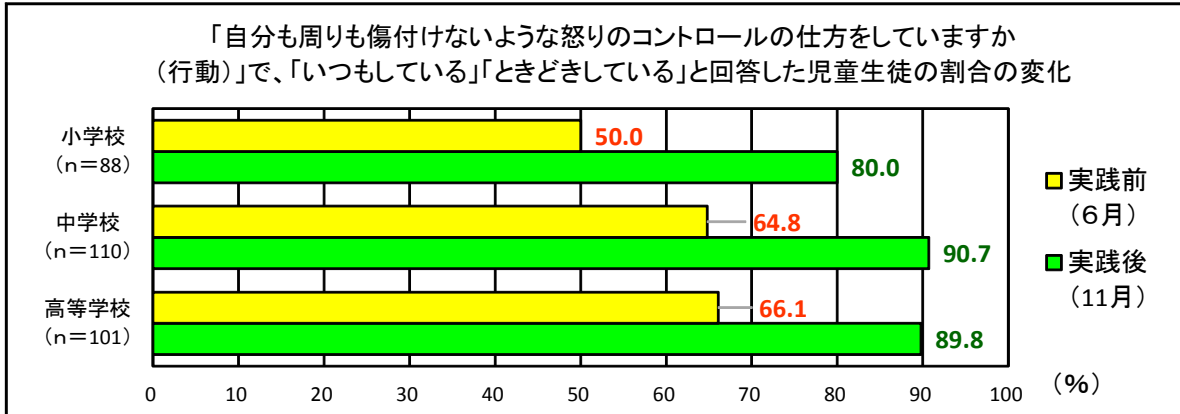
○「トラブルについてのアンケート」で各トラブルの場面が「よくある」「ときどきある」と回答した児童生徒の割合の平均は、全ての校種で下がりました（資料3）。

**c 自分も周りも傷付けないような怒りのコントロールの仕方についての児童生徒の意識と行動の変化**

（「ピア・メディエーションに関する活動プログラムの学習についてのアンケート」結果より）



怒りのコントロールの仕方	校種	実践前	実践後	差
自分も周りも傷付けないような怒りのコントロールの仕方を心掛けていますか(意識)	小学校	50.0%	88.5%	+38.5
	中学校	63.9%	95.3%	+31.4
	高等学校	73.3%	89.8%	+16.5

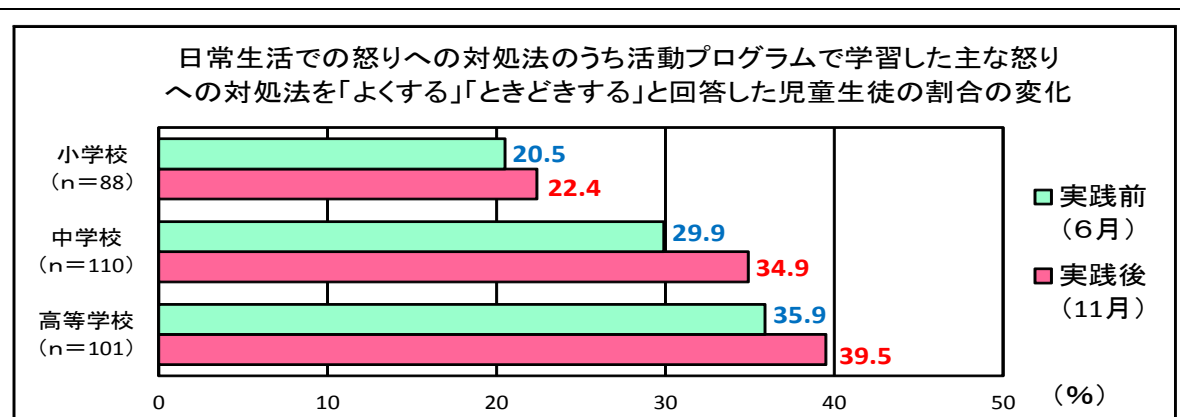


怒りのコントロールの仕方	校種	実践前	実践後	差
自分も周りも傷付けないような怒りのコントロールの仕方をしていきますか(行動)	小学校	50.0%	80.0%	+30.0
	中学校	64.8%	90.7%	+25.9
	高等学校	66.1%	89.8%	+23.7

資料4 自分も周りも傷付けないような怒りのコントロールの仕方についての児童生徒の意識と行動の変化

○「ピア・メディエーションに関する活動プログラムの学習についてのアンケート」で、「自分も周りも傷付けないような怒りのコントロールの仕方」(意識・行動)について「いつもしている」「ときどきしている」と回答した児童生徒の割合は、全ての校種で上がりました(資料4)。

d 日常生活での児童生徒の怒りへの対処法の変化  
(「トラブルについてのアンケート」結果より)



活動プログラムで学習した主な怒りへの対処法 (深呼吸する・落ち着くように自分に言い聞かせる・ 落ち着くまで数を数える)	実践前	実践後	差
小学校	20.5%	22.4%	+1.9
中学校	29.9%	34.9%	+5.0
高等学校	35.9%	39.5%	+3.6

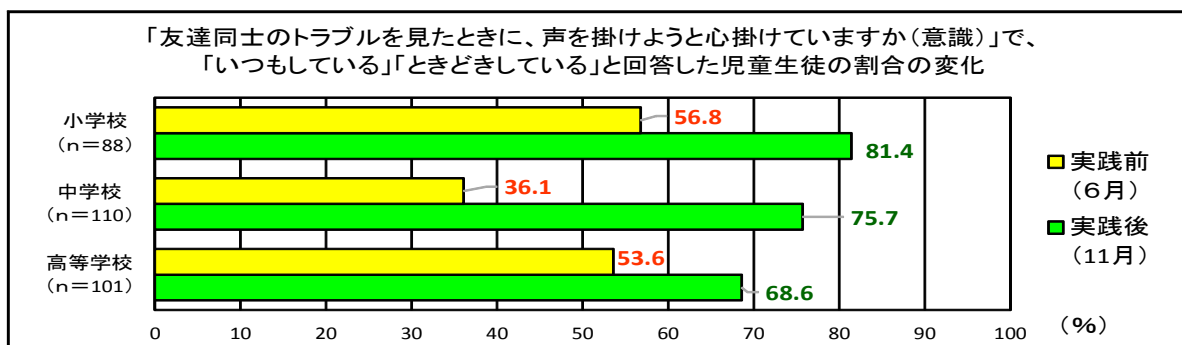
資料5 日常生活での怒りへの対処法のうち活動プログラムで学習した主な怒りへの対処法について「よくする」「ときどきする」と回答した児童生徒の割合の変化

○「トラブルについてのアンケート」で、活動プログラムで学習した主な怒りへの対処法（深呼吸する・落ち着くように自分に言い聞かせる・落ち着くまで数を数える）を「よくする」「ときどきする」と回答した児童生徒の割合は、全ての校種で上がりました（資料5）。

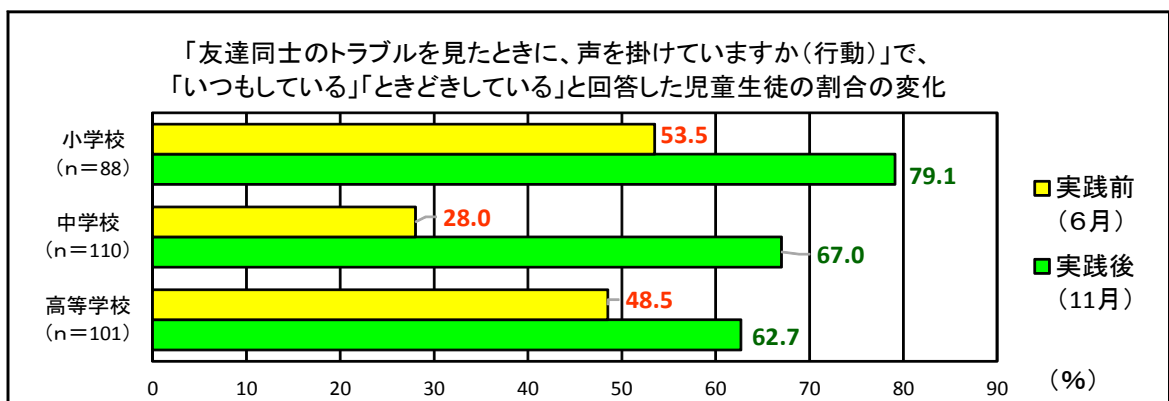
【検証の視点Ⅱ】トラブル解決に効果があったか

a 友達同士のトラブルを見たときの声掛けについての児童生徒の意識と行動の変化

（「ピア・メディエーションに関する活動プログラムの学習についてのアンケート」結果より）



友達同士のトラブルを見たときの声掛け	校種	実践前	実践後	差
声を掛けようと心掛けていますか（意識）	小学校	56.8%	81.4%	+24.6
	中学校	36.1%	75.7%	+39.6
	高等学校	53.6%	68.6%	+15.0



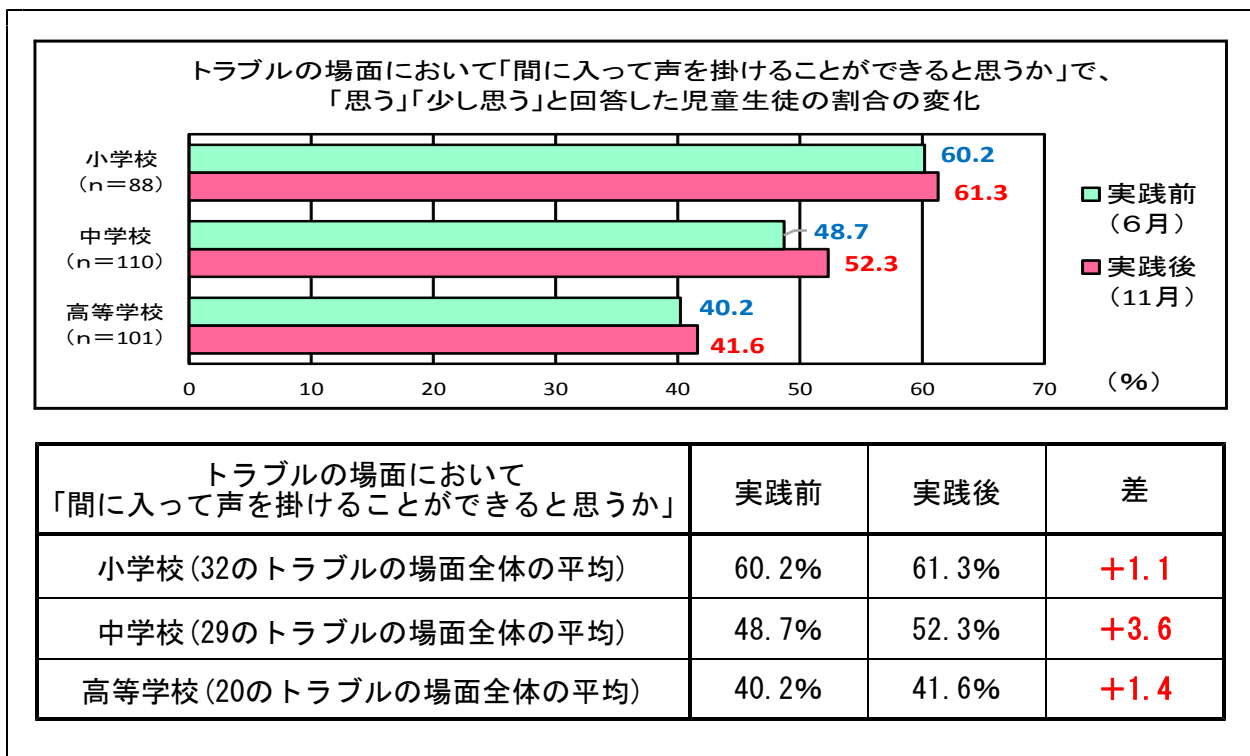
友達同士のトラブルを見たときの声掛け	校種	実践前	実践後	差
声を掛けていますか(行動)	小学校	53.5%	79.1%	+25.6
	中学校	28.0%	67.0%	+39.0
	高等学校	48.5%	62.7%	+14.2

資料6 友達同士のトラブルを見たときの声掛けについての児童生徒の意識と行動の変化

○「ピア・メディエーションに関する活動プログラムの学習についてのアンケート」で、「友達のトラブルを見たとき」に「声を掛けようと思心掛けていますか(意識)」と「声を掛けていますか(行動)」という質問に対して、「いつもしている」「ときどきしている」と回答した児童生徒の割合は、全ての校種で上がりました(資料6)。

**b 友達同士のトラブルの場面での声掛けの意識の変化**

(「トラブルについてのアンケート」結果より)



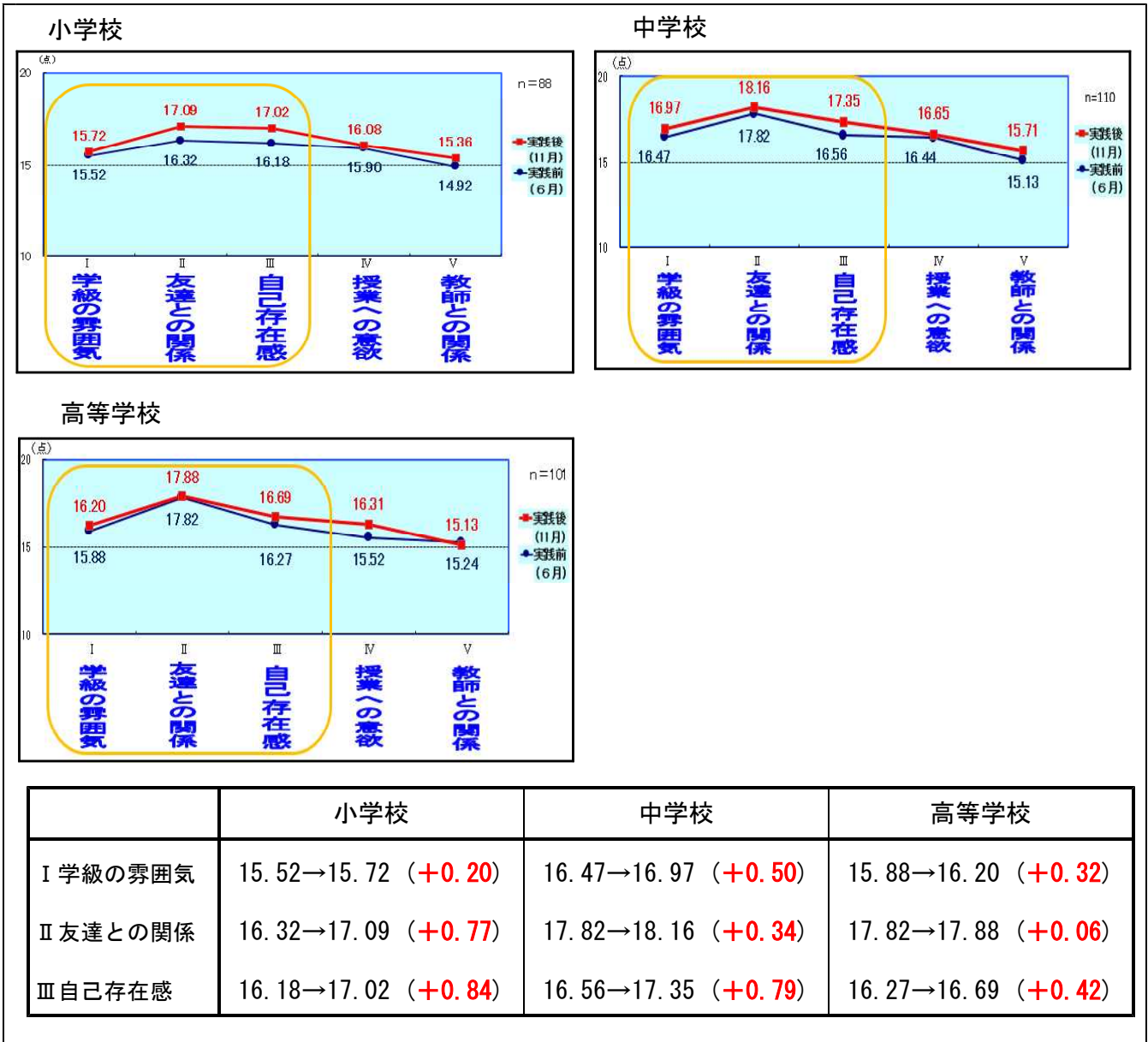
資料7 トラブルの場面において「間に入って声を掛けることができると思うか」で、「思う」「少し思う」と回答した児童生徒の割合の変化

○「トラブルについてのアンケート」で、各トラブルの場面で「間に入って声を掛けることができると思うか」という質問に対して、「思う」「少し思う」と回答した児童生徒の割合の平均は、全ての校種で上がりました(資料7)。

【検証の視点Ⅲ】学級における支え合う人間関係づくりに効果があったか

a 学級の雰囲気、友達との関係、自己存在感についての児童生徒の意識と行動の変化

(「がばいシート」結果より)



資料8 学級における支え合う人間関係づくりに関わる項目に対する児童生徒の意識と行動の変化

○活動プログラムの実践前後の「がばいシート」の結果（項目別）を比較すると、着目した3つの項目の数値は、全ての校種で上がりました（資料8）。

以上のことから、自分も周りも傷付けないような怒りへの対処法の学習やトラブルにならないような聴き方や話し方の学習、トラブル解決のスキル学習が児童生徒の支え合う人間関係を築くために有効であると考えます。